

「災害から得た教訓」

広島県 東広島市三ツ城小学校 6年 なかもと りょうすけ 中元 亮輔

今月の7月末に山口・島根県が記録的な大雨に見舞われ、土砂災害や洪水が相次ぎました。こ立した村の人々は不安な夜を明かしたので、とても心細かったと思います。橋が流され、家も流された町は変わり果てていました。また、家族や親せきの安否が分からず、「情報がほしい。」と不安そうに話していた人もいたようでした。そして、ひなん所へひなんした人は夜もねむれなかったと思います。

山口県山口市の特産であるリンゴの生産にも影きょうが出そうです。県は被害状況を確認中だそうです。大雨による泥水でリンゴの木が流されたりする被害が相次いでいます。7月29日の朝、両県境の被災地上空をヘリコプターが飛んだところ、山はだには、まるで熊手でかいたような土色の筋がきざまれ、道路や田は土砂にうまっています。こ立したしせつや集落に取り残された人々の救出作業も急ピッチで進められてました。島根県津和町名賀地区の上空にさしかかった時、山頂付近から麓に走る幾筋もの傷が災害の大きさを物語っていたので、規ぼうが大きかったこともうかがえます。このうらめしいバケツの水をかぶったような雨が人々をさらっていききました。大量の土砂が麓の民家に流れ込み、倉庫は道路側に押し出されたように見えました。この災害はまるで福島県の津波の映像を思い出すかのようでした。また、キャンプ中の小学生と保護者たち約200人がとじこめられていました。つねに自衛隊のヘリコプターによる救出作業が懸命に続けられていました。その人たちの事を考えると、感謝したい気持ちになりました。

日本海から東日本にのびる前線の活動が活発になり、8月1日には、日本海側を中心にはげしい雨がふりました。中国地方は昼すぎにかけても1時間に40ミリのはげしい雷雨のおそれがありました。このような、被害にあわないようにするには、山がく地帯に住む人は早めにひなんし、山がく地帯に住んでいない人も、早めにひなんすることが大切であると思います。また、たとえ経験したことのないような大雨にあっても、あせらず落ちついて行動することも大切だと思います。

全員が無事だった地域ではそのような対策が整っており、たびたび防災訓練もしていたんだと思います。ただ、これからの復旧が大変で、まだ課題が多く残っており、先行きが不安になっているという点もありました。また、この災害ではかなりはげしくひどい大雨がふっていたため、特別警報が発表されて、自分の体を第一に考えるように伝えられました。しかし、市全域には伝えきれなくて、対応もおくれていることから焼け石に水という状況だったんだと思います。今後特別警報を生かすためには地方自治体の理解と、態勢づくりがまだ必要であると思います。まだ断水している家もあり、ひなん所での生活を送っている人もいます。家が流されて仮設住宅でくらす人もいるかもしれません。これからは町一丸となって復旧作業に取り組んでほしいです。死者も発生した今回の災害。これからは災害があったときの情報伝達手段をもっと整えていく必要があります。例えば、ツイッターやフェイスブック等の活用もできるのではないかと思います。今回の災害で失ったものも多けれど、得たものも少しはあると思うので、得たものを大切にしていってほしいと思います。

ぼくは、普段から地域の人同士の理解や関係を深め、いざというときに助け合えるようにすることが大切だと思います。